

北中だより

校訓：自主 明朗 協同

南島原市立北有馬中学校
令和5年9月29日発行
文責：校長 上田 敏浩

心を合わせて

現在、ラグビーやバレーボールの世界大会が行われています。日本代表選手の活躍ぶりに、心躍る日々が続きます。日本代表の選手たちは、普段はライバルチームとして戦っている人たちです。国内のリーグ戦で、お互いがしのぎを削って、優勝を目指して戦っている選手たち。国際試合では、国を代表するチームとして優勝をめざし、ライバルではなく同志として日々の試合に臨んでいるのだと思います。その思いが、見ている人たちに感動を届けます。

さて、10月20日(金)に行われる合唱コンクールに向けて、練習する歌声があちらこちらから聞こえてきます。歌が上手な人もいれば、あまり得意ではないという人もいるでしょう。自分はどうも上手くないからとか、これくらいいいやと、適当な歌い方をしていると、自分の成長や感動はありません。また、いいものを創り上げよう、思いを届けようとしている人に対しても、実際の音だけでなく心の不協和音を奏でてしまうこととなります。

上手に歌えるようになることはもちろんですが、学級でチームとして高みを目指し心を合わせて歌うことで、自分や周りの心の成長につながります。また、聴いている人たちの心を動かす時間となります。残すところ3週間余り。この3週間で歌声がどう変わっていくか、とても楽しみです。

働くこととは? ～2年生職場体験学習+α～

9月20日(水)・21日(木)の2日間、2年生の職場体験学習を行いました。北有馬町内外の10事業所に御協力いただき、それぞれの職場に「出勤」した生徒たち。普段行き慣れた場所や見慣れた場所でも、普段は見ることのできない裏側の様子を知り、いろいろと得るものも大きかったようです。ある事業所では、勤務上の心得として、返事や礼儀の大切さ等を教えていただき、学校で日々行っていることが、仕事にも直接関係していることを学ぶ、良い機会となりました。先日のテレビ番組では、タレントさんたちが深夜のテーマパークで職業体験をする様子が放映されていました。慣れない仕事に大変な様子でしたが、「誰かのためになるのは楽しい」という感想が口々に述べられ、印象に残りました。

2年生が不在の朝の清掃活動では、1・3年生の多くの生徒が進んで参加し、あっという間にきれいにしてくれて、大変うれしく思いました。連休明けや雨天のため掃除ができず、多くの落ち葉があり、取り終わらないなと思っていたところでした。全学年とも「誰かのために」を学んだり実践したりした2日間となりました。



手話から学ぶ ～3年生福祉体験学習～

9月25日(月)に、福祉体験学習として、南島原市社会福祉協議会の御協力をいただき、手話体験学習を行いました。初めに、耳が不自由な人はどういうふうに思っているのかを教えてください、その後、耳が不自由な方に、御自身の思いを語っていただきました。生徒からの「周りの人にうるさいと言われることはないですか」との質問に、「耳が聞こえる人がほとんどなので、できるだけ音が出ないようにしています」と、気遣いしている心情を教えてくださいました。また、テレビドラマの音を5分ほど消して見てもらうと、耳が聞こえない人の追体験ができるともおっしゃっていました。他にも、手話による表現を学び、手話によるジェスチャーゲームを行いました。



教えてもらった手話をさっそく使ってみるなど、手話を通して新たな世界が広がったようでした。相手を知り、理解を深めることの大切さを学ぶことができた時間でした。